

令和8年9月16日指定

たかとおやき

高遠焼



【製造地域】

伊那市

概要

高遠焼は、伊那市高遠町で生産されてきた陶器である。高遠藩が城下への上水道整備に必要な土管を製造するため、美濃国（現在の岐阜県）から陶工を招いて窯を築いたことに始まる。

地元の赤土を原料とする陶器で、素朴で力強い造形と温かみのある風合いを特徴とし、灰釉や鉄釉などを用いた実用的な器が多く製作された。

現在もその歴史的価値と技術が継承され、地域文化を象徴する工芸品として親しまれている。

歴史・沿革

文化9年（1812年）、高遠藩主内藤頼以の時代に、城下へ給水するための土管製造を目的として始められた。藩は美濃国多治見の陶工らを招き、窯を築いて土管や陶器を製作した。これが高遠焼の起源である。

その後、民営に移行し、明治時代から昭和初期にかけては複数の窯が開かれ、徳利や甕、茶碗などの日用品を中心に生産が行われた。

しかし、陶磁器産業を取り巻く環境の変化により多くの窯が廃業し、一時は生産が途絶えたが、高遠焼研究保存会の設立とともに町営の「桜窯」が開窯され、陶芸家・唐木米之助氏によって高遠焼が再興された。

以来、地域の歴史と文化を伝える焼き物として、その技術と伝統が今日まで受け継がれている。

（問合せ先） 高遠焼振興会

〒396-0214 長野県伊那市高遠町勝間 142-1

TEL : (0265) 94-2813